

**テーマ：貿易統計（2012年1月）**

発表日：2012年2月20日（月）

～1月の経常収支は原数値で赤字の可能性大だが、季節要因の影響大～

 第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量			
	原数値	季調値	金額		前年比	前年比			前年比	前年比				
			輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア		
10	1月	431	6106	40.9	9.3	41.3	17.8	14.0	63.6	2.2	3.6	▲0.5	5.6	
	2月	6383	4807	45.3	29.8	45.9	46.1	15.4	53.4	23.0	4.5	13.7	39.5	
	3月	9319	8554	43.4	21.0	43.9	29.4	28.2	48.9	17.0	6.3	16.5	17.6	
	4月	7292	8868	40.4	24.5	39.6	38.2	32.3	40.6	17.7	21.2	13.1	19.8	
	5月	3091	5147	32.1	33.7	31.8	19.3	34.6	28.2	22.3	24.7	22.2	27.5	
	6月	6705	5083	27.7	26.5	27.4	27.4	27.0	26.6	18.1	24.9	23.5	19.2	
	7月	7846	5430	23.5	16.1	25.5	27.5	31.5	22.9	13.9	22.0	23.9	14.3	
	8月	638	5166	15.5	18.4	14.2	11.5	26.7	14.6	19.2	18.1	16.5	20.9	
	9月	7743	3619	14.3	10.3	16.1	17.0	29.1	14.6	10.6	7.5	10.0	13.4	
	10月	8126	4927	7.8	8.9	5.3	9.5	11.3	5.9	5.8	▲11.1	11.5	7.9	
	11月	1576	3967	9.1	14.3	9.1	11.1	25.8	11.3	15.4	20.8	1.8	19.7	
	12月	7196	4104	12.9	10.7	11.4	16.3	22.1	11.6	7.8	▲1.9	3.1	10.7	
11	1月	▲4794	2039	1.4	12.2	2.3	14.5	13.4	▲1.8	11.2	5.9	6.3	13.6	
	2月	6503	4729	9.0	10.0	9.2	3.7	22.1	11.0	4.9	10.9	9.5	4.1	
	3月	1863	793	▲2.3	12.0	▲3.3	0.9	8.4	▲1.1	5.5	1.6	▲5.7	14.4	
	4月	▲4677	▲4419	▲12.4	9.0	▲11.6	▲21.2	▲8.5	▲6.4	1.3	7.5	18.9	1.8	
	5月	▲8573	▲4634	▲10.3	12.4	▲10.8	▲9.9	▲12.3	▲7.9	5.5	13.7	4.7	6.1	
	6月	673	▲2086	▲1.6	9.8	▲2.7	▲2.5	2.2	▲2.5	1.7	▲1.0	▲1.9	5.1	
	7月	679	▲1770	▲3.4	9.9	▲5.3	▲5.7	1.8	▲4.7	▲2.6	▲4.3	2.2	0.5	
	8月	▲7796	▲3302	2.8	19.2	0.9	6.1	4.2	▲1.8	6.0	12.4	9.4	8.6	
	9月	2939	▲1219	2.3	12.2	1.5	▲0.4	3.2	▲2.8	1.0	3.7	9.8	0.6	
	10月	▲2818	▲5012	▲3.8	17.9	▲3.9	▲4.7	▲2.1	▲7.2	6.0	14.3	9.1	5.0	
	11月	▲6904	▲5427	▲4.5	11.5	▲4.4	▲3.6	▲11.2	▲9.5	▲1.0	▲3.5	22.4	▲5.5	
	12月	▲2056	▲5687	▲8.0	8.1	▲6.6	2.3	▲13.1	▲11.1	▲0.6	6.0	4.3	▲2.5	
12	1月	▲14750	▲6128	▲9.3	9.8	▲9.7	0.1	▲10.1	▲14.8	3.2	7.8	4.7	3.0	

(出所)財務省「貿易統計」

## ○ 旧正月による攪乱もあり輸出が減少。2月と均して見る必要あり

財務省より発表された2012年1月の貿易統計では、輸出金額が前年比▲9.3%、輸入金額が同+9.8%、貿易収支は1兆4750億円の赤字となった。貿易赤字の額は大きいですが、輸出、輸入、貿易収支とも市場の事前予想（輸出：▲9.4%、輸入：+9.6%、貿易収支：1兆4563億円の赤字）とほぼ一致しており、特に意外感はない。

輸出金額は前年比▲9.3%と4ヵ月連続の減少となり、減少幅も前月の同▲8.0%から拡大した。また、季節調整値でみると、輸出金額が前月比▲0.4%（12月：同+0.1%）、物価変動の影響を除いた実質輸出では前月比▲2.6%（12月：同+2.3%）である（実質化と季節調整は筆者）。

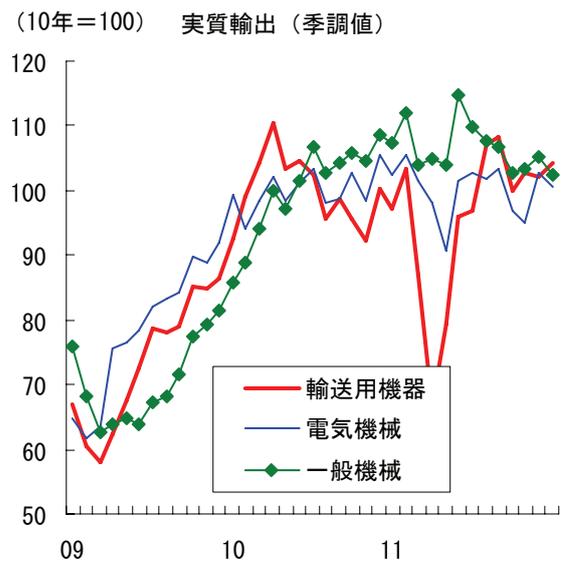
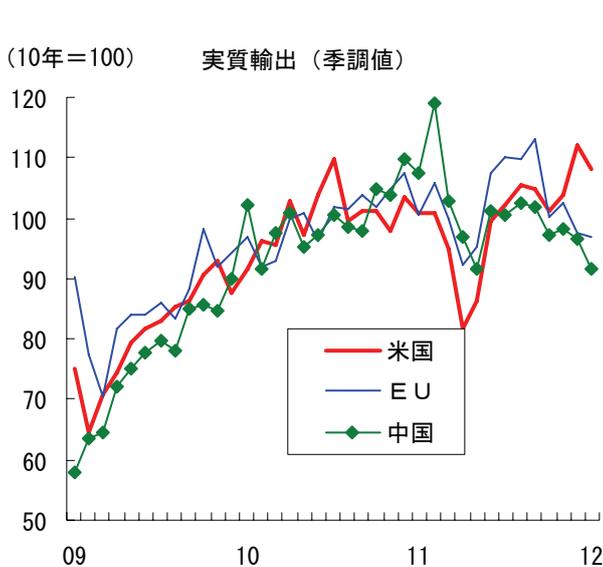
なお、1月分については、中華圏の旧正月のタイミングが昨年と異なることにより押し下げられたことに注意が必要である（昨年の旧正月は2月中旬、今年は1月下旬）。輸出の基調を判断するには、2月の結果と均して見る必要があるだろう。ただし、旧正月要因で攪乱されたアジア向け輸出を除いて実質輸出を計算しても前月比▲1.2%（12月：同+2.1%）であり、輸出が低調に推移していること自体は変わらないとみられる。米国等で製造業PMIが持ち直すなど、輸出を取り巻く環境に改善の兆しが見られているが、1月の段階では、輸出動向に大きな変化はないようだ。

一方、輸入金額を季節調整値でみると前月比+0.4%（12月：同+0.6%）、実質輸入では前月比+5.1%（12月：同▲1.7%）と増加している。2月に予想される輸出のリバウンド度合い次第ではあるが、現時点では、1-3月期の外需もGDPの下押し要因になる可能性が高そうだ。

○ 1月の経常収支は原数値で赤字の可能性大だが、季節要因の影響大

1月の貿易収支は1兆4750億円の赤字となった。単月では過去最大の赤字幅である。季節調整値でも6128億円の赤字であり、12月の5687億円から赤字幅は若干拡大している。

1月の貿易赤字額が大きいことから、3月8日に公表される1月の国際収支では、経常収支が原数値で赤字になる可能性が高まった。ただし、1月は正月休みの関係で、もともと黒字が減少しやすい（赤字になりやすい）月である。季節調整値では、経常収支は黒字を維持する可能性が高いだろう。また、前述の通り、1月の輸出が中華圏での旧正月のタイミングのずれにより押し下げられている点にも注意が必要だ。経常収支が赤字基調に転じるとみる必要はない。先行きも、貿易収支の赤字は当面続くことが予想されるが、所得収支の黒字に支えられる形で経常収支の黒字は維持される可能性が高いだろう。



(出所) 財務省「貿易統計」

(注) 実質化と季節調整は第一生命経済研究所